

**ディスクアレイコントローラ**

# ディスクアレイコントローラ

## 1.概要

型名	製品名
N8103-52	ディスクアレイコントローラ
N8103-53A	ディスクアレイコントローラ

### HDD アレイの組み方ルール

- ・ 同一コントローラ配下には同容量\*<sup>1</sup> / 同回転数 / 同一規格 (または同一規格で動作可能) の HDD を接続して下さい。

上記の条件のもと、以下の様な RAID 構成を組むことができます。

- ・ 同一のアレイコントローラ配下の HDD を使用して複数のバック / システムドライブを作成することが出来ます。
  - 異なる容量のバックを組むことが可能です。
  - 異なる種類の RAID レベルのシステムドライブを組むことが可能です。
  - CH をまたいだ HDD を使用してバックを組むことが可能です。
  - 構成の等しいバックを最大 4 つまで、1 バックとしてまとめる事が可能 (Spanning)<sup>\*3 4</sup>

更に、N8103-52/53A に関しては、以下の機能が提供されています。

- ・ サーバの運用を止めずに HDD 追加によるバック容量の拡張が可能。<sup>\*2</sup> (Expand Capacity 機能)
- ・ 構成の等しいバックを最大 4 つまで、1 バックとしてまとめる事が可能。(Spanning)

\*1 : 対象モデルに接続可能で、回転数が同じであれば同一バックで構成可能です。但し、容量の異なる HDD を同一バックに混在させた場合、バック内の HDD1 台あたりの容量は最も小さい HDD 容量に揃えられます。

\*2 : Global Array Manager(N8103-52,-53A)のインストールが必要です。

\*3 : Global Array Manager からスパン構成のシステムドライブを作成することはできません。

\*4 : スパン構成の場合は Expand Capacity 機能を使用できません。

## 2.機能仕様

	N8103-52(Mylex 系)	N8103-53A(Mylex 系)
拡張スロットバス形式	PCI (32bit/33MHz) ユニバーサルコネクタ	PCI (64bit/33MHz)*1 ユニバーサルコネクタ
CPU	Intel i960RS/100MHz	Intel i960RN/100MHz
SCSI 形式	Ultra160 SCSI	Ultra160 SCSI
同時使用可能なチャンネル数	1	2
チャンネル数	内部	1
	外部	1
Expand Capacity 機能	可能*2	可能*2
オンボードキャッシュ容量(MB)	16	64
キャッシュ推奨設定	Write Through	Write Back
バッテリーバックアップ	無	有
キャッシュデータ保持時間	-	約 80 時間
最大同期転送速度(MB/s)	160	160
対応 RAID	0,1,5,0+1	0,1,5,0+1
対応スパン	10,50,0+1+0*3*4	10,50,0+1+0*3*4
HDD ホットプラグ	可能	可能
スタンバイリビルド	可能	可能
ホットスワップリビルド	可能	可能
サポート OS	WindowsNT4.0 Windows2000	WindowsNT4.0 Windows2000

\*1 : 32bit も動作可能

\*2 : Windows2000 使用時にパック内のシステムドライブをダイナミックディスクに設定している場合は Expand Capacity 機能を使用できません。

\*3 : Global Array Manager からスパン構成のシステムドライブを作成することはできません。  
また、RAID10,50,0+1+0 の表示はされません。

\*4 : スパンにしている場合は Expand Capacity 機能を使用できません。

### 3. ディスクアレイに関する機能 / 用語の説明

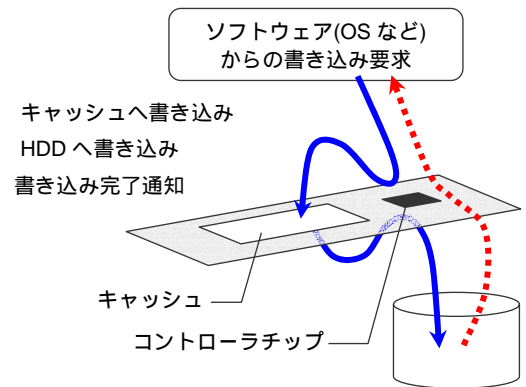
#### キャッシュ

ディスクアレイコントローラメモリで、ディスクアレイコントローラがHDDへの読み書きを行う際のデータバッファとして利用したり、パリティ生成処理を行う際のワーク領域として利用します。

##### (1) Write Through

OSなどのソフトウェアから書き込み要求がきた場合に、ディスクアレイコントローラ上のキャッシュとHDDの両方に書き込みを行う方式。

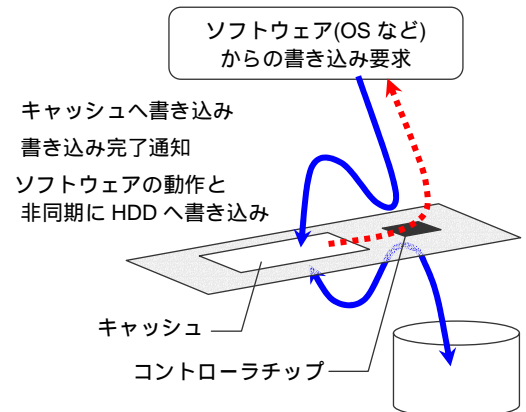
ソフトウェアは、HDDへの書き込み処理を終了するのを待ってから次の処理に移るため、一般的にWrite Backよりアクセス性能は劣ります。しかし、ソフトウェアからの書き込み要求が即時にHDDに反映されるため、電源瞬断などの不慮の事故が発生してもデータを損失する危険性が少ないという利点があります。



##### (2) Write Back

OSなどのソフトウェアから書き込み要求がきた場合に、ディスクアレイコントローラ上のキャッシュへのみ書き込みを行い、HDDへの書き込みはキャッシュ上のデータを元にディスクアレイコントローラが非同期に行う方式。

キャッシュにデータが書き込まれた時点でソフトウェア側に完了通知が発行されるため、HDDへの書き込み処理が完了するのを待たずにソフトウェア側は次の処理を継続することができます。一般的にWrite Throughよりアクセス性能が向上しますが、電源瞬断などの不慮の事故が発生した際にキャッシュの内容がHDD上に反映されない場合があり、データを損失する危険性があります。



### (3) バッテリーバックアップ

ディスクアレイコントローラ上にバッテリーを搭載し、サーバに電源が供給されていない間（「キャッシュデータ保持時間」の範囲で）キャッシュ上にデータを保持します。この機能により、Write Backで運用しているシステムにおいて、電源瞬断などの不慮の事故によるデータ損失を防ぐことができます。

【注意】 バッテリーバックアップに対応していないディスクアレイコントローラを利用する場合は、UPSを使うなどして、電源瞬断などの不慮の事故からサーバを守る対策が必要になります。

#### **【補足】 Write Through / Write Back の推奨設定について**

Express5800シリーズ用ディスクアレイコントローラでは、WriteThrough / Write Back の長所短所を考慮して、バッテリーバックアップの対応可否により各ディスクアレイコントローラの推奨値を次のように設定しています。

ディスクアレイ コントローラの型番	キャッシュ容量	バッテリー バックアップ	デフォルト設定値
N8103-52	16MB	無し	Write Through
N8103-53A	64MB	標準対応	Write Back

「N8103-52」を Write Through の設定で利用すると、他のディスクアレイコントローラと比較して性能が劣っているように感じる場合があります。その場合は、UPS を利用するなど電源瞬断への防止策をはかったうえで Write Back で運用されるか、バッテリーバックアップに対応したディスクアレイコントローラの利用を検討してください。

## パック

複数の HDD のグループで、システムドライブを設定するためのもの。

パック\*1 は、同一コントローラ上の異なるチャンネルに接続されている HDD 同士を組み合わせることも可能。

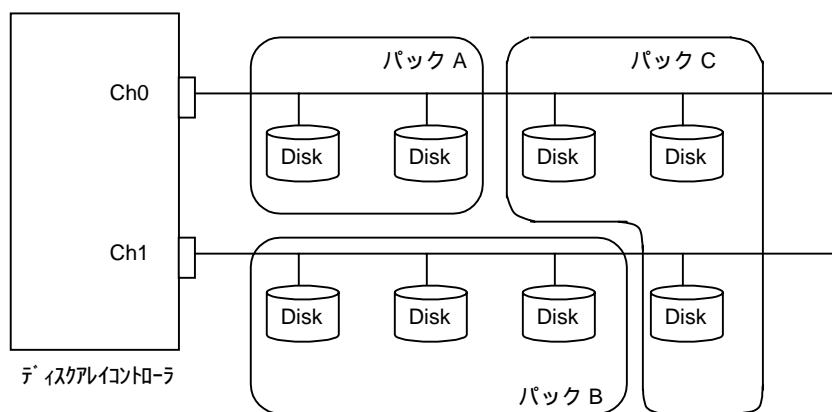
### ・ N8103-52/53A の場合

1 枚のアレイコントローラに設定可能なパック数は接続した HDD 数に依存\*1。

1 つのパックとして設定できる HDD は**最大 16 台**(N8103-52 は**最大 15 台**)。

システムドライブは 1 コントローラあたり**最大 32 個**。

\*1 : (例) N8103-53A の各チャンネルに増設筐体 (HDD14 台搭載可能) を接続した場合、接続 HDD 数は 28 台。2 台 1 組のパックを組んだ場合、合計 14 パックとなる。従って、この場合 14 パックが最大値。



## 論理ドライブ

仮想的なドライブ。OS からは物理ドライブとして認識される。

論理ドライブを作成する際には、容量、RAID レベル、書き込み方式を指定する。

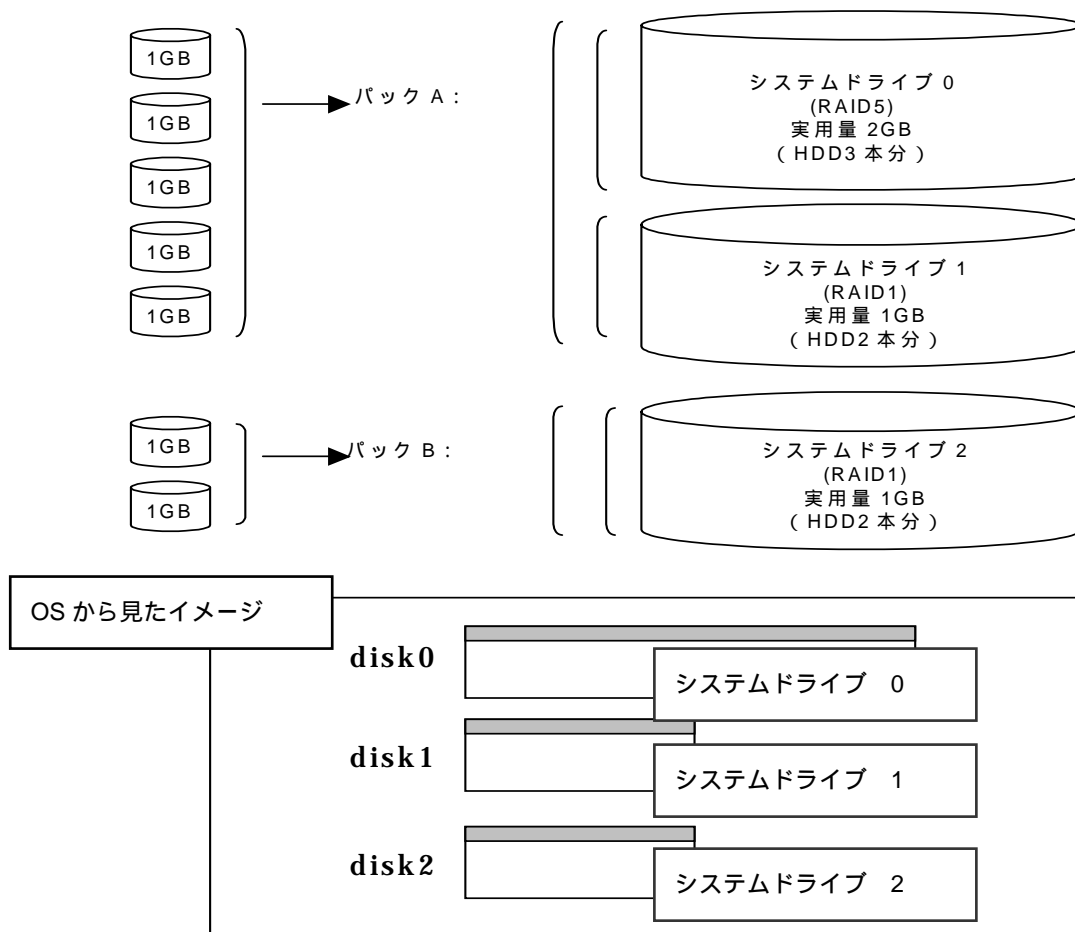
[ 補足 ]

論理ドライブは「**システムドライブ (SystemDrive)**」( N8103-52/53A ) と呼ばれる。論理ドライブはパック内に作成され、複数のパックにまたがってを設定することも可能 (「**スパン**」と呼ぶ)。

1 つのパック内に複数の論理ドライブを設定することも可能\*<sup>1</sup> だが、設定時には冗長性を十分に考慮する必要がある。また、インストール時には論理ドライブは 1 つのみにしておき、2 つ目以降はインストール後に作成すること。

論理ドライブを設定する場合は使用する OS の制限を考慮して行って下さい。

1 つのディスクアレイコントローラに設定できる論理ドライブの数は機種によって異なり、N8103-52/53A の場合、最大 32 個の論理ドライブを設定可能。

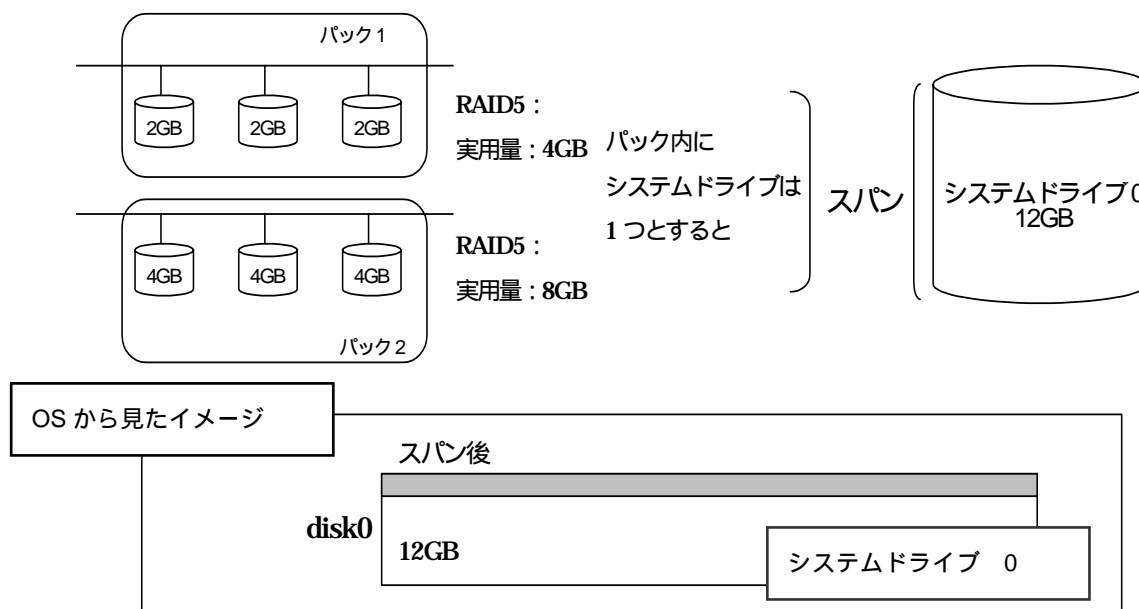


## スパン

- ・対応アレイボード N8103-52/53A

複数のパックにまたがってシステムドライブを設定すること。スパンは、同じ台数の HDD で構成されているパックが連続して配列されている場合に可能。

1つのシステムドライブは**最大4つ**のパックにまたがってスパンすることができる。\*1



\*1 : N8103-52/53A の場合、Global Array Manager から作成することはできません。

スパン構成を設定する場合は、**RAID EzAssist Configuration Utility** を使用して下さい

## HDD ホットプラグ (ホットスワップ)

HDD ホットプラグとは、冗長性のある RAID レベルにてシステムを構築している場合、システム稼働中でも電源を落とすことなく、障害を起こした HDD を交換することができる機能。

## オートリビルド

オートリビルドとは、冗長性のある RAID レベルにてシステムを構築している場合、障害を起こした HDD を交換後に自動的にシステムの再構築(リビルド)を行う機能。スタンバイディスクがある場合、スタンバイディスクを使って自動的にリビルドを行う。スタンバイディスクがない場合、障害を起こした HDD の交換後に自動的にリビルドを行う。

## スタンバイディスク (ホットスペア)

冗長性のある RAID レベルにてシステムを構築している場合、予備ディスクを予めシステムに組み込んでおくことで、HDD の障害発生時、自動的に予備ディスクを使用してシステムの再構築を行う。この予備ディスクをスタンバイディスクという。



Expand Capacity(オンラインエクспанション、Add Capacity、Expantion) (SCSI HDD 用のみ)

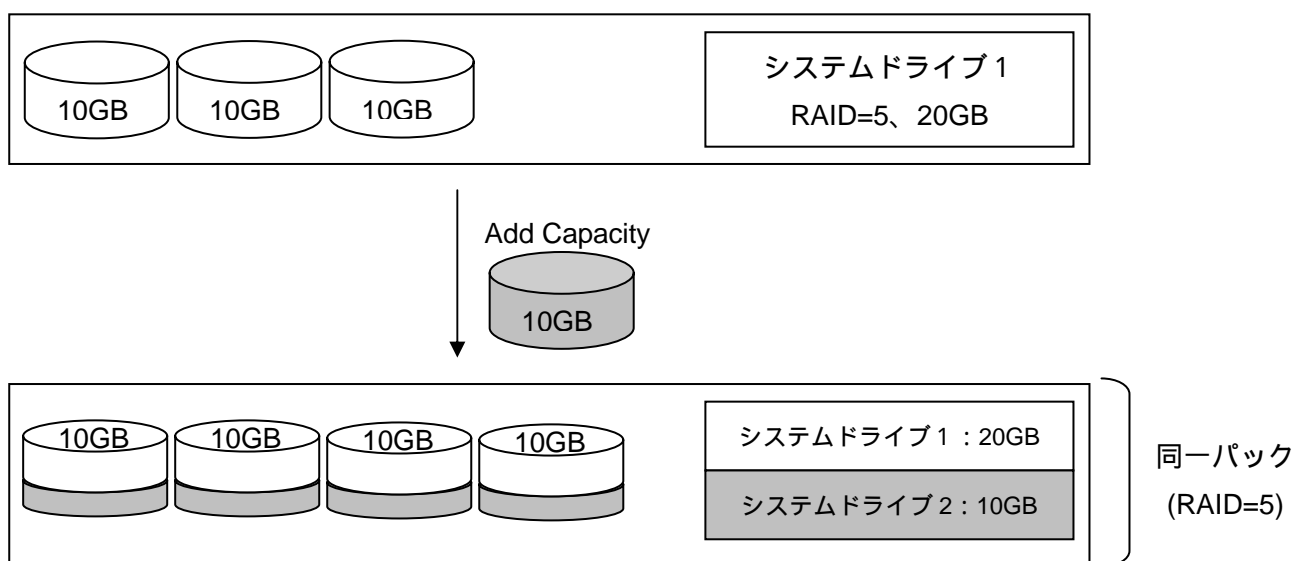
-容量の拡大-

・ N8103-52/53A の場合

既に設定済みのパック容量を拡大するために、最終パックに HDD を追加して 1 つのパックにまとめる機能(スパン構成の場合、Expand Capacity を実行することはできません)。

本機能はパック容量を拡大するだけで、システムドライブ(System Drive)容量を拡大する機能ではないため、パック容量の拡大に伴ってできた空き領域に、新規にシステムドライブを作成する必要がある。

(例)



クリティカルブート機能

サーバの立ち上げ時に HDD が Dead になった場合、Dead になった HDD を自動的に切り離して縮退させます。

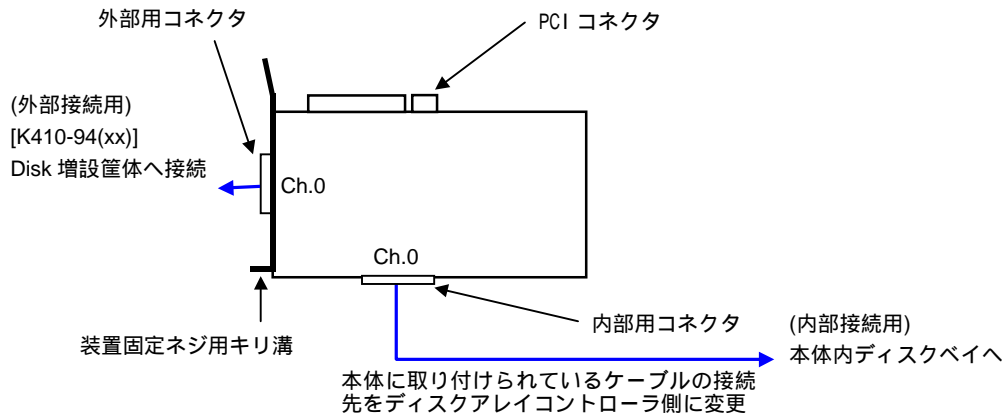
テンポラリーオフライン機能

システムドライブを構成している複数のハードディスクに異常が発生した場合、2 台目以降のハードディスクの異常が偶発的なものであれば、再起動により基本装置を自動的に復旧させるテンポラリーオフライン機能をサポートします。(N8103-52/53A のみ)

## 4.接続図

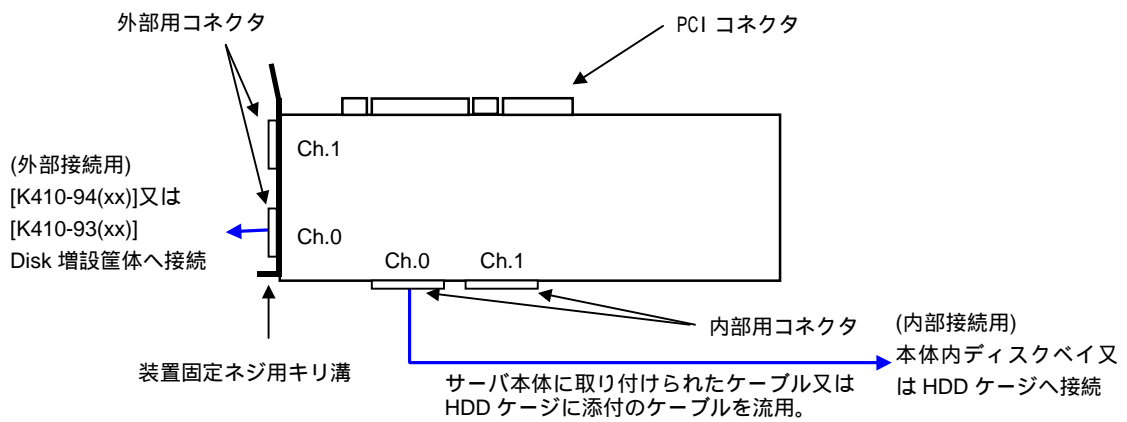
以下の接続図は、ディスクアレイコントローラの裏面（バッテリーやメモリ等が実装されていない面）から見た接続図

### N8103-52 ディスクアレイコントローラの場合



\* 内部用 ch0 と外部用 ch0 は排他利用

### N8103-53A ディスクアレイコントローラの場合



\* 内部用 ch0 と外部用 ch0 は排他利用

\* 内部用 ch1 と外部用 ch1 は排他利用

## 5.注意事項

### 5.1.一般事項

#### (1) 共通

##### [IDE/SCSI HDD 用共通]

- ・同一コントローラ配下には**同容量<sup>\*1</sup> / 同回転数 / 同一規格 (または同一規格で動作可能)<sup>\*2</sup>**の HDD を接続して下さい。
- ・電源制御機能による休止状態やスタンバイ状態への移行をサポートしていません。システムや OS が休止状態やスタンバイ状態への移行をサポートしていた場合でも、実施しないでください。
- ・PCI Hot Plug 機能をサポートしていません。PCI コントローラをシステムに接続する場合やシステムから取り除く場合はシステムの電源を切断した状態で行ってください。

##### [SCSI HDD 用]

- ・ディスクアレイコントローラ配下に Disk 増設筐体をデジチェーン接続することはできない。(SCSI1 チャンネル当りに接続可能な Disk 増設筐体は 1 台のみ。)
- ・K410-93(xx) / K410-94(xx) を使用して Ultra SCSI で接続する場合の最大ケーブル長は 3m、Ultra2/Ultra160 の場合の最大ケーブル長は 6m。
- ・Windows2000 使用時にパック内のシステムドライブをダイナミックディスクに設定している場合は Expand Capacity 機能を使用できません。
- ・N8103-52/53A に接続可能な HDD は Ultra160 対応の HDD のみ。

#### (2)Mylex 系

- ・DACCF(Mylex DAC MS-DOS ユーティリティ)は N8103-52/53A では使用できません。POST から **ALT+R** で **RAID EzAssist Configuration Utility** を起動してください。
- ・OS を WindowsNT4.0 から Windows2000 へアップグレードする際は、一旦 Global Array Manager をアンインストールしてから実施してください。

\*1：対象モデルに接続可能で、回転数が同じであれば同一パックで構成可能です。**但し、容量の異なる HDD を同一パックに混在させた場合、パック内の HDD1 台あたりの容量は最も小さい HDD 容量に揃えられます。**

\*2：コントローラと HDD 組み合わせ動作表

サポート HDD		コントローラ		
		Ultra160 SCSI/ Ultra2 SCSI/ Ultra SCSI 共用ディスク	Ultra2 SCSI/ Ultra SCSI 共用ディスク	Ultra SCSI
Ultra160 SCSI 対応コントローラ	N8103-52 /53A	Ultra160 SCSI で動作	接続不可	接続不可

\* N8103-52/53A は Ultra160 SCSI のみサポート (Ultra2 SCSI/Ultra SCSI はサポート外)

## 5.2.オートリビルド機能注意事項

### (1)オートリビルドが動作しない条件

通常、ディスクアレイコントローラは、ディスクに DEAD 等の障害が発生した場合、故障したディスクを取り外し、その後新しいディスクを挿入することにより自動でリビルドが動作いたしますが、以下の場合、オートリビルドが動作しない可能性がありますので、ご注意願います。

- 1.故障したディスクを取り外してから、90 秒以内に新しいディスクを挿入した場合
- 2.リビルドが開始されるまで、数分かかる場合があります。異常ではありません。
- 3.新しく入れたディスクの容量が、元のディスクの容量よりも小さい場合
- 4.接触不良の場合
- 5.シャットダウン処理中の場合
- 6.電源 OFF 中に故障したディスクを交換した場合
- 7.他のシステムドライブでリビルド/Consistency Check/Expand ADD Capacity のいずれかを実行中の場合
- 8.交換したディスク / SCSI-BP / DAC のいずれかが故障している場合

### (2) 対策

オートリビルド動作がしない場合、以下の順で対策を実施して下さい。

- 1.新しいディスクの型番が正しいものかどうか再確認して下さい。
- 2.他のシステムドライブ（パック）でリビルド、Consistency Check、Expand ADD Capacity が動いていないか GAM 等で確認して下さい。もし、動いている場合は終了するまで待ってから、再度リビルドを実行して下さい。
- 3.ディスクを再度抜いて 90 秒以上待った後、新しいディスクを再挿入し数分間待って下さい。
- 4.GAM 等からマニュアルリビルド可能な時は、実行して下さい。
- 5.一旦、電源 OFF し各コントローラ対応のオフラインユーティリティ(\*1)からマニュアルリビルドを実行して下さい。
- 6.DISK を交換して再度、リビルドを実行して下さい。
- 9.DAC、SCSI-BP を交換して、再度、リビルドを実行して下さい。

\*1 : N8103-52 は「RAID EzAssist Configuration Utility0」を使用する。

## 6. ディスクアレイについて

RAID は「Redundant Arrays of Inexpensive [Independent] Disks」の頭文字をとったもので、複数のハードディスクを論理的に結合させて1つのディスクドライブとして認識させる方法である。

この方法により、安価で小容量のハードディスクを複数使用して高価な大容量ハードディスクと同等のディスクドライブを構築することができ、さらにドライブを強化(信頼性の向上、オートリビルドのサポート)・拡張することが可能。

RAID には、いくつかのレベルがあり、その中で Express5800 は RAID0/RAID1/RAID5/RAID0+1 などをサポートしている。

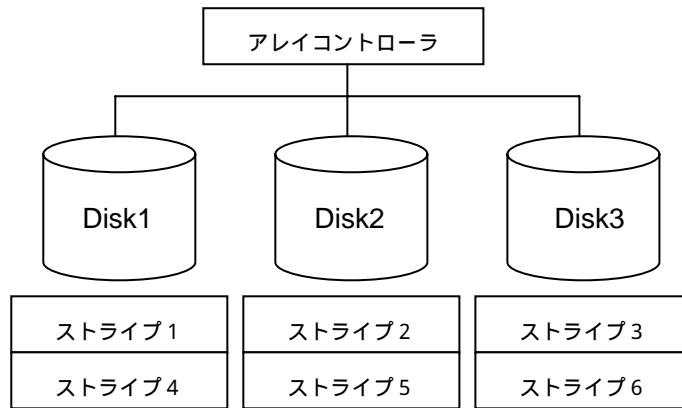
全ての RAID レベルは「複数台のハードディスクを1つのディスクドライブとして認識させる」という点で共通であるが、それぞれの RAID レベルで性能・コスト・使用条件が異なるので、ニーズにあった構成を選択すること。

それぞれの RAID レベルの特徴と選択の方法例

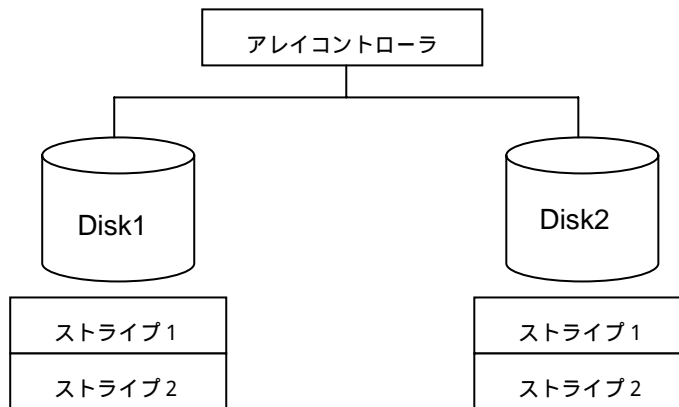
RAID レベル	定義	冗長性	特徴	使用に適した AP	必要な HDD 台数
RAID0	ストライピング	なし	・リード/ライトとも最も高速	クリティカルでないデータに対して高い性能を必要とする AP	2 台以上
RAID1	ミラーリング	有り	・ディスクの二重化 ・リード性能は HDD 単体の場合と同等だがライト性能はやや劣る ・同じデータを二重に書き込むため、多くの HDD 容量が必要	システムドライブ、重要なファイルなど	2 台
RAID5	パリティ付きストライピング	有り	・パリティデータ ・転送データサイズ大 ・RAID0,0+1 と比較するとリードは同等だがライト性能はやや劣る ・1台分の HDD 容量がパリティ領域として利用され、コストパフォーマンスが高い	重要なデータを大量に扱い、リード性能が要求される AP	3 台以上
RAID0+1 (Mylex 系 RAID6)	分散ミラーリング	有り	・ストライプ単位でデータ領域とミラー領域を2台のディスクに分散 ・リード/ライトとも RAID1 よりもやや高速 ・同じデータを二重に書き込むため、多くの HDD 容量が必要	システムドライブ、重要なファイルなど	Mylex 系 3 台以上

## RAID 構成イメージ

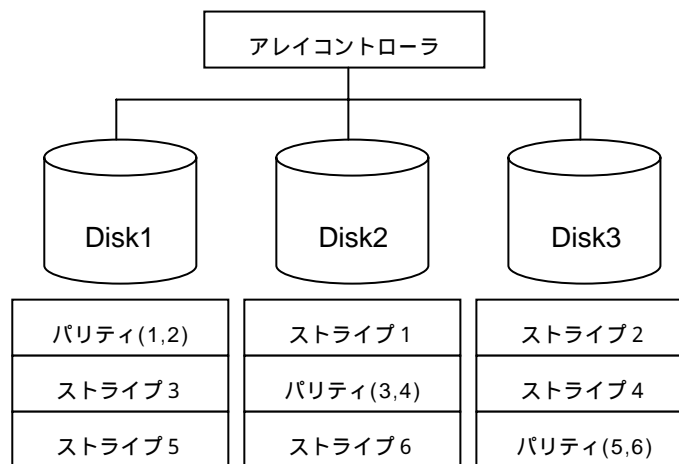
### RAID 0



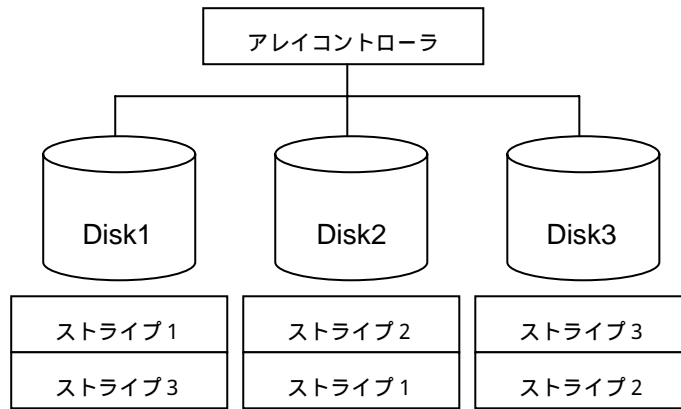
### RAID 1



### RAID 5

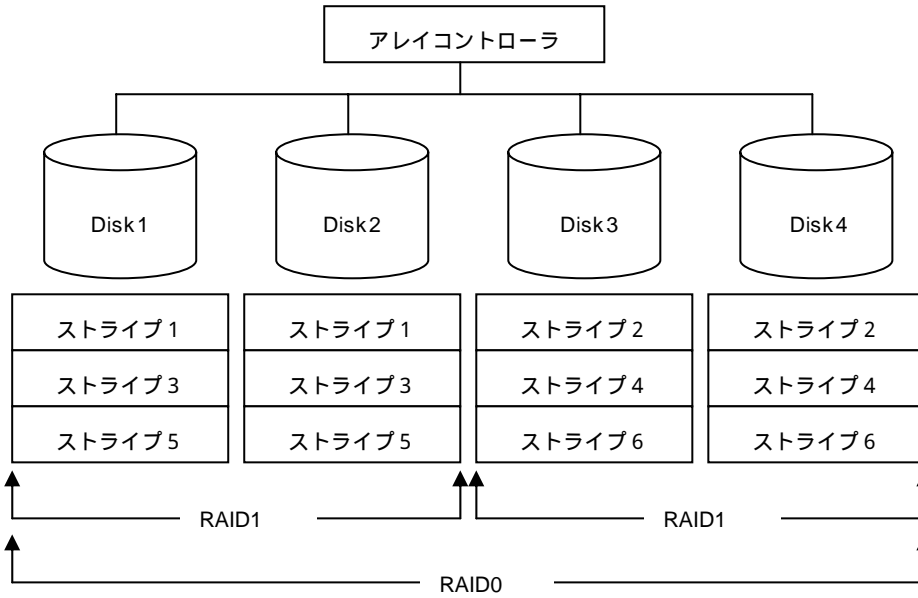


RAID 0 + 1  
(RAID 6)

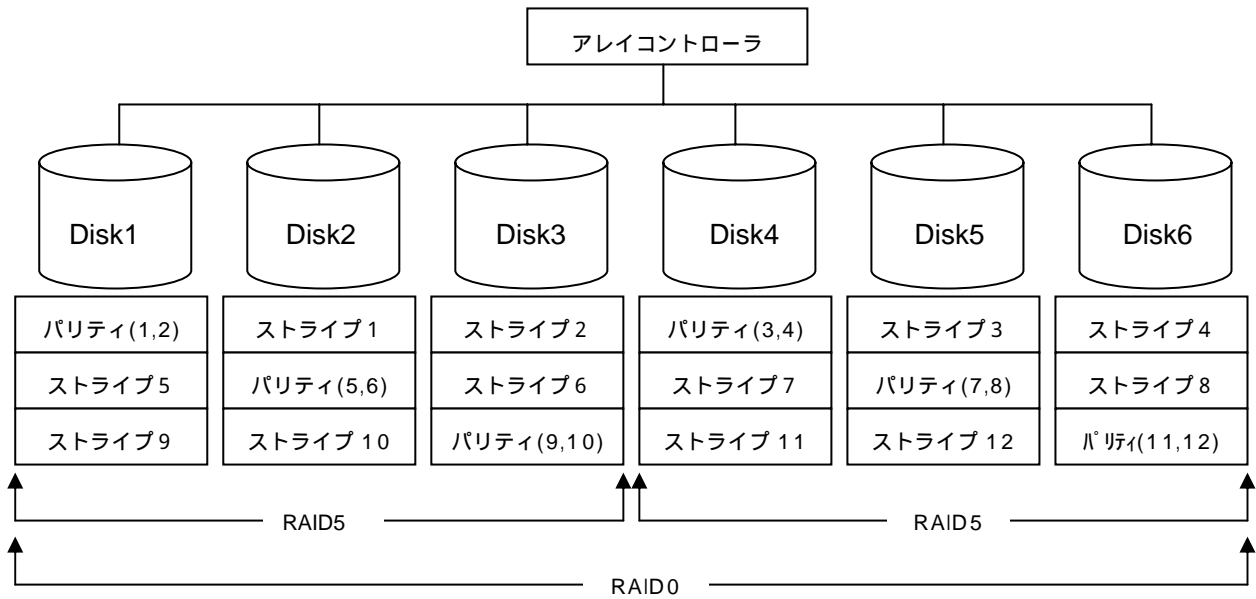


# Spanning イメージ

## RAID 10



## RAID 50





RAID0+1+0  
(RAID60)

